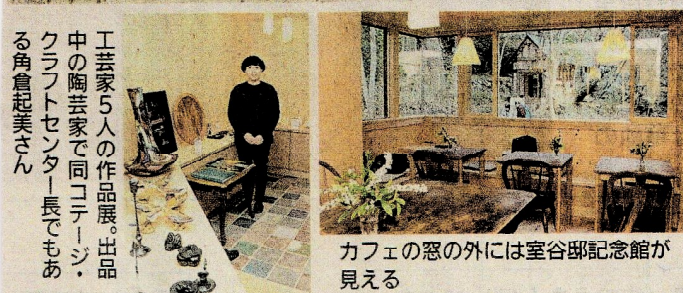




六甲山にまつわる自然、環境、文学、食などの多彩な催しを大学のカリキュラムに見立てて情報発信する「六甲山大学」。山の旬の情報を通して、六甲山の魅力に迫ります。(次回は5月19日に掲載します)

ヴォーリス山荘 コテージオープン

新しくオープンした「ヴォーリス・コテージ」の正面=いずれも神戸市灘区六甲山町北六甲



カフェの窓の外には室谷邸記念館が見える

草屋根映える木造建築 カフェとギヤラリー併設

山荘は1934年、米国人建築家ヴォーリスによる設計で建てられ、NPO法人「アムニティ2000協会」(西宮市)が所有し、コテージは敷地内の「ヴォーリス記念・きょうだいの森」に整備された。

先日、公開前の内覧会にお邪魔した。神戸ゴルフ倶楽部北西側の道沿いにある山荘入口から入り、きょうだいの森に整備された。コテージ正面は県道16号に面し、駐車場もある。基本設計をヴォーリス建築研究の第一人者、山形政昭が

国登録有形文化財や近代化産業遺産などに認定されている「ヴォーリス六甲山荘」。その敷地内に5日新設のコテージがオープンした。カフェとさまざまな工芸品を紹介するクラフトセンターを備え、5月11日まで工芸家5人による展覧会が開かれていた。

緑と茶が混じった不思議な屋根は草屋根。シロバナタンポポやシュンラン、リュウノヒゲ、ハンゲシヨウ、ゲンノシヨウコ、ヒヨスミレ、サギゴケの計7種の多年草が植わり、四季を感じられるそう。

ゆかりの意匠、部材

だいの森の散策路を下る。ヴォーリス建築の部材の一部を移築した休憩所「室谷邸記念館」がある広場を通り抜けると、周囲の緑に溶け込むようにたたずむ木造平屋の建物(約65平方メートル)が見えてきた。

工芸作家5人展開催中

開催中の展覧会「工芸の集積5人展」には、森本さんのほか、西田光男さん(鍛冶)、福嶋秀子さん(和紙)、角倉起美さん(陶芸)、坂本

尚世さん(吉野ヒノキを使った照明器具)が出品。販売もしている。いずれも同法人のメンバーで、コテージにも作品が使われているそう。

カフェでは山荘カレーや手作りケーキ、コーヒーなどのドリンクを味わえ、山荘に入館せずカフェのみの利用もできるが、入館者はコーヒー、紅茶が割引になるのお得だ。新築ならではの木の香りが漂い、六甲山の自然を体感できる居心地のいい空間。新緑の季節、窓からの景色はさらに輝きを増すに違いない。

開館は土日・祝日のみ(11月24日まで)。山荘入館料500円。午前11時〜午後4時(受付は30分前だが、月1回ほど夜間のライトアップも検討しているそう)、それも楽しみだ。同協会 ☎0798・65・4303

根岸真理が案内

山の四季便り

ねぎし・まり アウトドア系のフリーライター。1961年、神戸市須磨区生まれ。六甲山を活動拠点とし、六甲山大学広報専門委員。著書に「六甲山を歩こう」など。

んが手掛け、壁には山荘と同様に節があるヒノキが使われ、色調を合わせた赤茶のベンガラも塗られた。

屋内は玄関近くの土間がクラフトセンター、奥が板張りのカフェ。窓にヴォーリスが好んだ結霜ガラス、まきストープの枠に室谷邸の部材、ドアに別のヴォーリス建築に使われていたクリスタル製のノブなどがさりげなくあしらわれ、見どころ満載だ。

また、玄関ドアの両脇には神戸・塩屋のステンドグラス作家、デュルト森本康代さんの作品が埋め込まれ、夕陽が差し込む時間帯にはひときわ美しく輝く瞬間があるそう。ぜひ再訪してみたいと思っている。